押絵新話
浮世床
村田
初編
へ13
3118
1

へ13特
3118
1

昭和九年
九月三日
購求

櫛髪新話自序

天も短く。すも長あれども各物ふ
ふるふる用ゐ利ゐ所なし。唐山
乃剃頭店。日本乃髪結床。和漢
噪のふるふるみあく。人情さべく同
じゆまど。世ゆ移る時の風

芋子坊主より毛ぐ薄くて。雅ぶと喜ぶ
毛唐人。媽媽撫乃毛ぐ厚くて。俗
ぞと呼ぶる日本人。おもひくの味
薄云学問。過百も武儒先生。隣の
糟糠より唐裏買ふ。大清中華いと
美しの余ら。いとぶと郷ら貨を

算ふ。他の國云大きい自慢。唐詩の
白髮三千丈。廣いて縁て個のめく。髪毛
髮ぬぐ毛ぐ。ぬぬ。ぬく来ぬ
なぬ国字解。いつに人まで大きくいふ
ふ。大体禍も あぐよ毎。額の一丈
一尺で眉間尺ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ

四冊で国子寮教授沢田先生
を押めて跡を止め。其傍に郡
学者あり在けるが。彼髪長媛を引
出して。我　大御國の古事来歴お
布ぶ髪髪金山と七巻ぐるぐるひん
ぬいて。童謡を考訂して論
教の心の外。聴耳を傾て居るに
流石に雄々しき日本心。吾　皇國の
国風にて生て生まれつきの拙どこしあれ。
考ぐ癖あり。国学大人に示
いて。「ゆるゆるとして髪結ぶの記」
ひらがなでされて「ひらがな」

を。羊ち。このことをすくいふとうる。稱
其ほとしてれぞえる。例の漢籍ふ
説説。説。今按ずるに日なり。
日髮小結ふ年。搔る物ぞ。ほを月の
下略。是ハ月完小留置故なり。備
又。どを是如何。其時先生世も

騷げぞ。チト仮字いま遠ぐも。月髮月完
の客多く。朝うら晩まで立續けふ
結ふ所故。待の無い者を待持ふ。
これふ仍ひ。ひ。ぢなれ。又一説ふ。
業の志の字といふ。油ぐけふ系ふ
想べ。祥ふ神ふハ是濁ふ。其濁と

ピヨイ〳〵ト手ヲ。ゴ字なんぞ。ぜんぞで
ごんぞ。ぜん意味深もあるお考。古壹
人ぶ三十二乳。名て癖あるが。
浮世床。百人會ハ
百種ゑ妖髪乃形人ぶ風。
樂屋銀杏ぶ長ゑあ。蓮懸本田
乃短きぶ子尺と短く。すと長〳〵。
名其利ゑ中〳〵用ある所〳〵。一個
待ぶ易ぶ撥子ふ。ゑ〳〵ひぼ
〳〵ゑ頭向乃一端。人ぶ長短情譚
ゑ。面白。音を〳〵咲ゑ。面存の
戯作者心。在下ゑ短き丈を〳〵。長

物語云這小冊。兎さゝら毫の毛
を土にめゝゝ。先一剃刀あてんてう
ば想ふ。維嵗文化八年辛未皐
月十日。梳髮店待屋乃ゝ見
本町延壽丹。於江戸ちの
賈客南柳。

式亭三馬戯題

正銘

式亭
家傳

南蓋

箱へ袋へ

代二十二文　代五拾文

十有一變
觀易
印車つなぐ
炙
所名
尺八指南
精論
祈禱
高天原之進
八峯山小先達
難行院
外科
楽学舎富居

●當冐年新版中形繪入讀本二冊戲作

田舍芝居忠臣蔵　初編二冊○好古愚癡録　三冊
譚話浮世風呂四編　男湯二冊　敵討頑癡氣傳　一冊
人間萬支虚誕計　初編一冊○古今童謡考　三冊
大千世界樂屋探　初編一冊○江戸畧人傳　五冊
四十八癖二編　一冊
三芝居客者評判記　残編三冊○馬鹿夢短才圖會三冊
素人芝居正本仕立　初編二冊○風流草　二冊
古今百馬鹿　初編一冊○風俗夢物語　五冊
人相酔狂集　俗云百はら　三冊
一盃綺言　初編一冊

右の通●印あるは追追板行仕候

柳髪新話浮世床初編巻之上

藏書之記　いちかは　みつそる

江戸戯作者　式亭三馬戯編

大道直して髪結床必ず十字街ふめるが中も浮世風呂嫌わる家ハ。浮世床と名を稱て連檐の梳髪舗間口二ツよ建列ね腰高の油障子油でぬる粘とる紙も浮世と書くる筆法ゝ。利ゝ所ハ飛鳥と射て。蝕字とゆゝん號ゝふ提燈屋の永字八法其一方ハ長家の

路次口況ふうえう。且入口の模様をいうぶ。大峰山ぬ小先達
懺悔くの梵天ハ西ふ洒落てもに丹精と遺。小松原の
大東賈冬菜くの番ハ。霜ふもまけぬ立掛直をめふハと。
さ袋ども不知半分價。ふ元三文嘘八百。経庵口の口入
所。縁談の世話印判の墨。孰と孰と地口のごとく。
清町便小使無用孰と孰と謬誤ハ。尺蠖の
屈めハ伸んが為の九天二間ふ。寓舎と書る案朝
様。當世風の小儒先生。渇しても盗泉の水屋ふ泌

せど。勝母の里ふ入ハ。親子宣篆の儀紙形とハ。
易ハ所謂山雷頤の卦象と中たハ占やさんが十有八
変と筆太に入ちふせ。轉宅の數といへる。本道
外科と割て書るデモ医者の表れハ。和様ハ匙頭も
想られ造作附賣居ありと。べんゝりまゝる張紙ハ大屋
さんの書法正傳。さゝがに律義と想像ね。灸とゑ所
の招牌ハ些ー左りく曲て。ひめのり有の標識ハ究て圓ー
或ハ四角の犬這入或ハ三角の竹子板。ひくゝ弦の稽古ふ

めれば。ゆるゝ人八の指南所。士農工商混雑で。八百萬の相
借家。神道者ハ店賃の高天原ゆ三十日の大祓ゆ若ゆ
病。釋氏ハ如是我聞長家並の定規を守ると。差嗤く
一棟ハ。げゆも長くの浪人者。病昔昔雲の階様と暗次
版と倶ゆ踏外してより。牡ゆ丸まぐう生の松。高砂雲と
ゆ。しゆゆ温婆の名さへ。ゆ。鉢植ゆ松ハ。ゆ。
摘て。ゆ。家の齢めぶるも。戸揚の湯ゆ。代を経ね
らん。栄枯貧福さゆぐる中ゆも。楽隠居と云ふ

老人紙衣羽織ゆ置て。巾して大踏歌より。浮世床の
門首ゆ停立。▲トンく〳〵トたゝき。サアく起〳〵。遅のぜ
遅のぜ。めてるも。朝寝も。程がめると。物ゞ。繋結床ゆ
りのゆ早く起る。若ぶゆ馬鹿〳〵。ヨイ〳〵貧ゆコレ。貧さん
紀。ゆ。奥の方にて主婆ゆ。寝ゆれゆる。声ゆく。● ハイく〳〵 ▲サア起〳〵く〳〵
下剤ゆ。留や。紀。ゆ。ヤイ。ヤ。べゝぶぼうめぶ。熟方ゞ。ゆ。
ゆ。めの。ゆ。良まぐゞ。寝濃いトつぶやき。居るゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
■ ワツト。ゆ。ゆ。ゆ。● ゆ。ゆ。良め。ゆ。ゆ。

させとろと。恩と仇とハ付るものゞ「ハ」ハつゝら恩なことゝハ
ゞざりやせん。ろちハ絹もくッてゐふ絹へ隠居さんとそ寐倦なる
から。我の明るのと結兼なるれど。つんちゝハ寐さうち
だうりゞ今の洗濯ゞア「ハ」ねこいゝゞ口功者ゐ。今の洗濯
ゝの縮の洗濯でもちろ。紺縮緬。緋縮緬でもちゐれゞいゝふ
働の絹へ白木綿ゞ今流ゐる茶返しのやうな色ゝ染て。悪ハ
うゝく取ゝ。どゝくゝと群集をる花ゞ。そゝゝゝへ蔵をる。
エてきゝ絹へ「ハ」ゐさゝいりのさ「ハ」コレまハ絹ゞ。祝方をきゞ

記絹へ。ゝの明絹へ。めんまりまゝ夫略中の絹のもちゐまゝた
りのゞ。山城の国ゐて頭二ッある子とうひとまゝ記もあり
さゝるゐ牙で寐てゐるゞゝゝ。めの又かしもゝゝゞコレ
早く記ゐせへと云へ「ハ」隠居さんきゝい若景ゝ毎ゝゞ絹
「ハ」ゝれさるゐよ。老と物るゐゞ若景にゝゝへコレ留。そゝゝと
きゝゝく掃て湯を湧して垂きゃ。ゝれハ切て裏て剥ゐて
ドリヤ湯へ一ゝい這入ゐそとコレ濃ゞ寐てもおれゞ一番ゞと
外の者と先へ出てとる。出てゝ「ハ」それでもおめへさん寐ゝ

付ておやるのさりやァ親が湯の通人お客が来りやァ待しちやア
部やせん。一げ番人出しなせ「ウンニヤ左うふ通人「それなら
ちやつと「やまよりも早く起しておけ「モシく「ウンニヤ左ふ通人
「モシく「すんざなら直しい「何だろ落なした「十二落たさへも
落をおぼえ通人もぎが「あの歯の附髭が「ぞうぶぞうめ
頭巾と疑って居るかい「アハヽヽ ト坂座へゆく出る ▲ぞうこちぶ男
どてらをきてひぢりめんの細帯をまへ女房の下…
焼桐の丸下駄人なと…三馬…
ゆち古…の…
…るかたゞ孫とよぶ髪あり○たゞ孫とよぶ油と…

たぼをふつくりと出し「まげの一を上の方へ
そらして結ぶなりもとより図のごとし但し只今結立の髪にても一時日の
後結ふたるやうに見ゆる事を趣向にしてひさしをぬくのは
むかしの丸びたひなり○たゞ孫とよぶ名を俗に油手
かアいがり孫とよりしと略したるもの歟これは
あるて手拭をかしら入まくふところへやきそ○この
風を推ずるに明和の末安永の初の頃行し髪の
風に似たり当時流行おのくむかしふうなれば髪の
風俗も又かくあるべき歟▲つれとなぞもとぶきの「きん贅さん早いの「ヨイ勇さんちや
ゑさの二三日は仕るかさつぱりえうけ通人の「仕るかなら
然されど。へン。人を馬鹿にした。先一昨日。幽君松が面れ葬礼
通りからめりつが通人かゝくつくりとさとぞひ通人「何ろ一つ「ソレ。

えてゑ。此中附とよきとしき女よ　トあどで毒〳〵て方角をきくる。○俯ことを手紙のこと〳〵て
ゐゆうり直か。そうしてぬろ婦さ「晩るの暁ぬんさア。そうさるさ
山の神めエ。流球芋なら一本十六文宛も売くいとふ角を
二本生さやアがつて。いまゐりに猶ぐらよ不承なふもり
くぢいてギウの音も出させ狭へシぶ。此方が不始末と晩ふ
めんごうら。死こ嗜をうるあうにだアまつ居るらバ斉日
の性まちやアあんめへし。宴ぞとおつこさうて日頃の瑕をさ流
と一時ふ売やアがつて。小言の山の。ヘン。撰みて十三文まとくく

並やアがるさ。人形はけさしき社福の神ちやア狭へか「アくくく
そのろへ小言八百に利を食さといふ洒落ぶの売口さ長く
居るさんな。息子株ちやアあるめへ。流せバ連も行ぶめへな。
こまぶ又かんの売るぶ。尻の掃除しして呉れる親があると
いふめんちやアねしとぶの詰りを已の身が痛し痒しだノシ
きうぢやア狭へか。お柏べッちやア訳が分ッて居るのぶはまる狭へ
者ぶぜ「そつやア二文も兼知ぶろの。一体酒が悪いのなみ
立ろく可愛さうに酒よ咎をうるせるこちやア狭へがはい一斤

きゝなると。野郎が空涙で来るのんどうら皆とさへいアス。ソレ
翌る日ハ天窓が重てへとろお頭痛が遊びでとろ云ふん
流そろハ。よしろ己が肉でも敷居が高くなるとらふのんざぶ。
紙ハ一寸切られるも二寸斬られるもと云さ奴がそうちともち
三寸とゐるわぞざアなア。アモウ清まふ縁へせ。酒ハ羽笠っから頓
酒ざ「ゑきーいりのよ「よく縁もありふ縁せまア。金毘羅
さゐも成田さゐも家なだまゝしろまれ縁へ「そりやア
其名香よ。神佛ハへ通しご。又だましにらせさなト。嘆く

清縁へうら四縁もめて縁へのさ「浬ア縁へ。よろしくお讃岐
よ母さごコウ湯へ切ろろ「まぎ「切て来べい。ヲあんな何を
来縁へう蜂の野郎ハ「来るく「来ね。あの野郎ア達入
のねへ猿がせつへ付ふ面の皮アミめくって見べい。此中
泣面をして報むうらの女ねへかゝあが衣裳を脱して上ヶお世
あれが又週日为女が苦ろふ買ってさ帯のゑ。おめへも知居らア。
雅助が乱分写音をして流生死。为女が乱分就来ふく引
ぶさで急な金が入りのんどうら三十両をしてあれふ売さア

「ゆ〜さうく。アノ形チメの茅うへ〜さうよ。めらつアもめ〜丸角ご
うら物がめつぺう魅いる。めの帯とかくめが衣装。化正行
二枚ス。とりわぶ結縮緬で裾也ーぶ長と一枚ぶ引通ーぶ絹
裏ハ紅絹の芝居ーい奴よ。開帳系と芝居とめれぶ味乃
丙へ聟の来ら村とダッメこ度ーきやアお陸ーと稲へきて
居ろ〜ふ。なんぶ村稲人と云ても彼足ぶ物ハあらうス。そろを
ちんぶ彩ぶ番とくどゝて。舌こ枚とお見ふうけこんス。丙ハ
五日ばりるてらふ仏さうとらハ苦ぶ。ろぶで一月丙なりぶ

猫糞さ。ナシトめんきり連入ぶ稲人ぶ「ひどゝらうよ
「ひどゝくこうちも同ド茅神さあぶアト四へりくゆとり油で
の絵入めいびらうどの役付さそうらぶうをさびてるぎりのざりアとこれ
めうあハさうをきぶりく〜ひびゆーやくちゆ〜ちやとしてちゆきさうゆりかさ
そのくもう矢象さう〜矢舌湯〜と素流指南のこと生
社盟とうきめうあてかう中五六歩ふ貝書生とくんうり無念
皮子鷲と云ふ古風のうロ舞ゆり生国ハいぶれ片田舎孔糞へどうぶこ主人
の者拝学の間四五年ゆかれど江戸のこハむちゆ〜
夙ま起き夜ろう舞てかもぶりめぶの「ゆこれハ先生さん。早ら
どぶのすん。先生とのそハあゆきもう「あれハ清ん見と楽ひ
ゆきぶこら早〜起る氣もるふぶ。家鹿の乃ん起さうこと

やめうけてくどうもさのふね「ぢん」「ぢん」「赤六が酒うでも酔てまや」
とろ子「此男ハ何ものゝ」といふ。嵐が酒ゝ酔てくたまるりのうつくし
「ヘエ。ぢんうちハ又筋向の赤六が。例の牛蒡でめうけこうと
ちひ牛「た」何さ。家鹿と嵐の異名さ「ヘエ。嵐ゝも表徳
がぢぢぜんかとろ子「表徳ハ赤ゝぬが。社君ぢの。家鬼ぢのと
種〻異名がありて「左官ぢの筆ぢのとはけるも
ちがごろ。めいつぶ筆人穴と明ちやア左衣さうぎぢ「べらぼうめ
だまん居ろ「アイトへらえで行ロと「獨居して居ると嵐ぢぐぶ

馬鹿ゝ仕ると一屋無猫老鼠走白昼と左傳ゝもあるとの
あれを侮〻どうもなるふね王肅が逐嵐丸でも欲いりのぢ
「逐嵐丸とハ京傳の本ゝ書てありやと歟さゝ買へかとろ子
「馬鹿ァいへめれハ讀出丸ぢハ「ホニさうぢゝけ「ドリヤ一ツ
刹てめううトとるのたゝひハ何と「コレ笛モット茶居の脇と
ぢぢさうかきとゝぢ
祇〻掃ぢぜんぜくぢべらぼうぢいくぶ云ても掃ぢ
ぢる「アイ「箒千里惟留ぢ掃ざるぢうぢ。アハ〻笛ハ奥ゝ
洞〻床ハ身と洞ゝとゝふうら髪結床の隣ゝハ奥の用を

たしても水でも汲がらず「きついもおせ話さ。閔子騫めヱ　孔「ナニダ
閔子騫ぢやア黄白ゐの冨どいふのぢや。御ゑらがた们まであれが安じ
ぞる。ハテ孫公閔子騫「ヲツトまいり一ツ閔子寒る「へ。さく　孔「毛竹
とかくてニーしとかくる　孔「むかふのかべに張付ある寄の　かア竹本祖太夫鸐澤
びんやんの蟻をとれ　びくりをつけてみて居りしが
蟻鳳ハテあるるがあるの漢ゐ貫太夫ならぶらふも有
されど日本ゐの寄しいむ秦の始皇帝が松に太夫の官位を
与へしが。竹に祖太夫の官をやるさするのも是ぞと。扨又鶴澤
と云く。蟻鳳と對を取る心へどういふ意ぞあらう。コレ

主人あの書きものはゐにそるのさの　人「どれヱ　孔「あれどぶ
「あれは坐敷浄瑠璃さ。祖太夫に蟻鳳ぢやらう。夕もう百
ぞろり這入ました「フム　トハいへども根ろハテナ。あれは俗書に踈い
からちんと解せぬ。又こちぶ今昔物語ト。何ぞ朝寝房夢羅久
フウトんだ。林屋正蔵ハテナ。風流八人藝　ハア所謂
きー
李氏が八佾のたぐひとつかえるナ。此李氏も魯国の太夫じや
佾ハ舞列で天子ハ八ツ。諸侯ハ六ツ。大夫ハ四ツ。士ハ二ツ佾をる舞
人數其佾數の如し「モシ夫は何の数でござりやすヱ　孔「はや

八佾といふ舞の數ぢやテ「ぶんちうハ又おつな事をいひやしたアハヽヽ。あれハそんな六かしい物ぢやアござりやせん。八人藝と云て一人で八人の藝をする盲人さ「ハテナ盲人でさへ八人の業をするに。おれらハ兩の眼を持ながら一人の行ひがはかゞかねとハ。ハテ殘念閔子騫「そりや二ツ「アヽヽ「あの何ハどうかな今と云宗の者であるのハ「今あれハ今昔物語さ朝寐房夢羅久林屋正蔵こんちうの方が圓生さんもしれも上手する咄家さ。ト

「お早いの「アイ其つぎハ「まづ隱居さん

ぢある「よし「コレ主人咄家とハどうしたものぢや「咄話をする手合さ「今笑話か。笑話ハ漢がおりしかん。山中一夕話の事ぢや開卷一笑とも言ふが。又各別ぢやテ。笑ハ笑道人が作つたものぢや。まづ遊戲主人が笑林廣記和本にも聞白駒が譯したのハ新語。あるひハ笑府のことぢや。イヤどうも漢ハ遠いものぢや。あの趣向ときたら笑事ハ數でありまいひさがるものからのまねしと日本ニ譯しあるもの「唐咄も咄家がありますろう子「あるともく日本の咄ハ

ゐい甚ご巧みのご「唐ハどうぐろ志く極へ江戸の出家へどれも上ぐぜへ夢羅久が出そのハ真の出ぐぜのう「まりさ。林屋がのもおりまえよ「ぢらァ圓生がおしく志社「始終とうしいの「夢羅久のハ地が社。どうも情合うまく「ゐぜへ「可楽と一世一代を志ぢやァ極へう「までもスケに出らァ「助高屋がの一世一代と志ぢ流が又志がつ伝りのよ「ユしく芝下の一世一代とらハ誤ぐそれでハ重言ゐるでゝ。いれハ一世一度とらふりのご。出家くとゆぐも家の家さへ

ゆれがよいことゝ志ふ。出家と志ふハ湯桶訓ご出を訓う。家ハ漢音ご。呉音でハ家とよむてる。扨て儒学ハ漢志国学ハ呉音でよむ。又仏氏の方ゐども呉音でよむ。それハ各別。笑話家と志。或ハ落句ゆ。落語家とも

いべよいふ。出家と志ハイヤハヤ寒ふ絶倒。〳〵そでゆ古方家後世家ハ漢音二條家萬葉家ハ呉音で唱へる。〳〵事のみと弁へねとハ。ハテ独念関子騫「そんゐゐ出家ゆ笑話家といひやせうね「志ゝ今のきゝとふうハゆでゝ

の家と待さうぐるよ一日紙社ちやべるものと麦鞦家。物と言ふく
食ふ者と食乱家或ハ飽食家「酒とく飲む者と飲食と
ちや。うるさうぐるやうぐの「えんぐ利湯捕洲ぐ酒と
ものと酒客。酒屋と酒家「ハア酒家ぐ酒家ぐるぐ豆腐
と豆腐家ぐの「提燈屋ぐ提燈家で。蒸餅屋ぐ蒸餅家
「馬およく騎る人と馬家とうぐ腹とちぐらう「香とかぐ
人と香家と云ちやア稼らぐのの「さういうんえたきぬこく
香とうぐ花とさとるぐの洒ハ古んえんどもぐ花と洒る香ハ

きくとうぐ俗例で耳だうぬてナ「香ハ鼻で嗅ぐぐうら
「さうさ耳ハ旬ふとぐ孤人「耳できくものうら香ときく
とうぐ紙けれど。鼻ぐうかぐ方ぐようらうぜ「さうよ鼻ぐ
きいて耳で嗅う物ぐら。目ぐ言てロで見物ぐの「さう欲
と目で痛ぐして天窓ハ踏貫の用心ぐ「コレ足下ぐ
やうに言ふてハ論ぐ手ぐい。てくんさりのぐ足ぐうぐ聖人
もものとうるとうさるの想像わるぐどうも度ぐかさい。ウア
夷狄ふ素しとハ夷狄と行ひ。ひよ入とハ郷よちぐぐふぐ。アハ

ふい実ふ嘆息をするのこぶ。流人濁酒を飲べつれも共つ
ゆ。
稲ばなるふねゑ「実ふ疼嗽とをるゑ濁酒ハ毒だらう
それハおかゆゑ世人「イヤサめう對人ふるゑぬて「モシくめう
ちゑとも講釈をゆゑて人子「イヤ〳〵愚人と論ハ言ゑ。イヤ
ちゑふバトゆる引遠て「ヤ隠居さんも湯ゑ子「アイサ。朝湯を吉
蠅で結ゞヤとゆゑ〳〵。湯へ這入るゑふだんてをいれハ結ゆ
。角鼻頂ゞナ。イヤ兎ゑさい。ト茂居式ヤア實ゆ大入ゞ。
ゆ。面ゑぜちゑを先ふ稲「それゞうてもおゑさん遅うゑ
ゆ。と其代り寄ふ宴へゆ出ゑ世人「ろゞふゞうゆ我日剃て
ゑらふ行ゑら何も急ぎヤア稲。我ゞのハ剃るのゞヤア
稲人「笛を拵るのゑ子「ウンヤ。引めくるのゞ此年ゑゆるゞ月代ハ
引めくゑゑ。天窓を引側〳〵たりをるゆハゑとゞふ稲人ト
ゆ。ゞふゞゑる「よ〳〵様でゆ出ゑ世人「ナニ様ゆ毛がゆるゆの。様行の
毛がゆれゞ隠居〳〵居稲。ゑ色ゑで目をゆゑ。
ゑゑハ付髭を様くちやにをるゆ。ソシテゆゑと叮寧ゑ言れ
今朝ゆ枕ゑとて落てゆゑ「勝ゑ付ハたゞ〳〵て歯くゞい

ヲ人とたくゝゆーと。禪ぢやアあんめ〳〵「アラ〳〵」ユウ今ゆうこ
ばく孫んじんも大きな屎癡呆ぐぜるア「泄。イ。孔の家
〳〵。放屁傷者ゥめいつぐ何そちつて。まご不思議ニ店と物
通さぐめつけ物よ〳〵ヲコウ。傷者とふ奴い金を性識ニ者
ごとそつさら一向ちきみトンチキぐぜ。ちんふんかんふんぐどう
仕つて。近う傍て後まれ扨あふれます世うッ。開帳場のいん
そぐ癡言といふ者うに。高慢ちきな熱燗呑でも美こい人
や可樂の次がつふ孫へス。めいつふぐりんの論語流の書こに

ちふぐとふぐ〳〵「然ふ」ふく「あらちをあへ。孔子の道
ぐりちつても孫道へ切ちるとねるこ〳〵踏迦のこ「孔子の
道おいて王子の道ちく。ちつぷうゆやアちるも〳〵「唐のこと
ぐつう探して宝ちのる中踏いのごの。悪い病ひゆとつ
ちうれこめの人ハ性物ぢやアきつて手人ようを不ぶぐぜ
〳〵そーてめのぎ女をこ孫へうる。廊下へちつぐと虫ふ新巾ご
ぐうさア孫へめの人が内ゆ居る付とえ世て人古ふい見都代
扨て。湯とたつしるぐ「〳〵何。酒本飲ちえ

お門出帰りテテンテンくゝゝ「十分茶去よ」「あのゝゝ
釈とさるゆゝゝ社くゝ物とゝゝ稲くゆゝごらう「清釈いの
関相撲家を孔明牛房切の槍と捻く後撲とと
働きまとる所ゝ遥たの方ゝ使ゝ立ます。たる西の兵ゝ
誰ござりまうぞや。櫓と枝の大主者鍬形打ゝゝ五枝
ごとろの兜ゝさろくと名殺。給一ゝ半天股引「ヨット待
ろ。どうゝゝ「ゝゝゝ「ゝゝゝゆよ。のゝゝほとゝゝ。
大ゝとゝゝるゆとぬゝとごらう「ナニ。ゝりゆゝ軍出の講釈ご

時代九郎
坂井孝一郎書